

様式③

提出日 年 月 日

2017年度 琉球弧研究支援 報告書

研究テーマ「沖縄県内におけるアルバイトの実態調査」

氏名：比嘉結実

所属学部学科：法経学部法経学科

I. 初めに

今回、「沖縄県内におけるアルバイトの実態調査」という研究テーマで沖縄県内のアルバイトについて考えるため、沖縄大学の学部生を対象としたアルバイト状況についてアンケート調査を実施することになりました。

II. 研究の目的、動機

本調査研究では、①アルバイトの適切な労働時間とは何か、②「ブラック企業」とそうでない企業の違いとは何か、③沖縄県の労働問題を改善するためにはどうしたらいいのか、そして、④アルバイトをしている人たちが、何をもって「ブラック」と考えているのかなどについて明らかにすることを目的としています。

III. 研究方法、地域、期間

情報収集、資料作成をし、沖縄大学の2つのゼミにアンケートを実施しました。

- ・ 調査対象： 沖縄大学法経学部法経学科1年生ゼミ「問題発見演習II」及び3年生ゼミ「テーマ演習」
- ・ 調査人数： 23名
- ・ 調査方法： 演習受講者に記述式アンケートを配布し、記入後回収した。
- ・ 調査時期： 2017年12月1日～15日

IV. 結果

問1 性別

男性 21名 女性 2名 合計 23名

- ・ 性別について尋ねたところ、男性は21名、女性は2名という結果になりました。

問2 年齢

18歳(5名)、19歳(6名)、20歳(2名)、21歳(9名)、22歳(1名)

問3 業種

居酒屋、飲食店(12名)、スーパーマーケット(8名)、ファーストフード(3名)、
機械修理等(1名)、ガソリンスタンド(1名)、その他(3名)

居酒屋、飲食店	12名	53.4%
スーパーマーケット	8名	34.7%
ファーストフード	3名	13%
機械修理等	1名	4.3%
ガソリンスタンド	1名	4.3%
その他	3名	13%

- ・業種について尋ねたところ、53.4%という半数以上が「居酒屋」や「飲食店」で働いた経験があるという結果になりました。これに、「スーパーマーケット」(8名、34.7%)や「ファーストフード」(3名、13%)、「ガソリンスタンド」(1名、4.3%)などを合わせると、86.9%となり、サービス業に従事している学生が極めて高い割合を占めていることがわかりました。

問4 勤務日数(週当たり)

3日(3名)、4日(5名)、5日(8名)、6日(2名)、2~3日(1名)、
4~5日(3名)、0~7日(1名)

- ・週当たりの勤務日数について尋ねたところ、1番多いのは「5日」(8名、34.7%)で、次に「4日」(5名、21.7%)、続いて「4~5日」と「3日」(3名、13%)、「6日」(2名、8%)、「0~7日」(1名、4.3%)という結果になりました。
- ・1週間のうち、4~6日勤務している学生は、計19名、82.6%という結果になりました。

問5 ①休憩時間/6時間

休憩時間なし(7名)、10分(2名)、30分(7名)、60分(7名)

②休憩時間/8時間

休憩時間なし(8名)、30分(1名)、60分(12名)、90分(1名)、
120分(1名)

- ・6時間以上8時間以下の勤務の場合は45分の休憩、8時間を超える勤務の場合は1時間の休憩が義務付けられています。しかし休憩時間なしと回答した人の割合は、全体で32.9%を占める結果になりました。

問6 有給休暇

- 0日／1年(1名)、3日／1年(1名)、5日／1年(1名)、
 10日／1年(2名)、30日／1年(1名)、分からない(17名)
 ・有給休暇について尋ねたところ、「分からない」と回答する人が多いという結果になりました。

問7 学業や健康への支障

睡眠時間の減少	4名	17.3%
疲れる	2名	8%
勉強の時間が取れない	1名	4.3%
店長がうるさい	1名	4.3%
なし	15名	65.2%

- ・学業や健康への支障に関しては、「支障なし」という意見が最も多いという結果になりました。しかし、「睡眠時間の減少」を回答する人たちも複数おり、支障があることがわかりました。

問8 アルバイト先への不満

社員が仕事を押し付けてくる	3名	13%
休みが取れない	3名	13%
残業が多い	3名	13%
時給が安い	1名	4.3%
強制的に出勤させられる	1名	4.3%
店長がうるさい	1名	4.3%
なし	11名	47.8%

- ・「社員が仕事を押し付けてくる」、「休みが取れない」、「残業が多い」という意見がそれぞれ3名ずつという結果になりました。学業や健康への支障はなしという意見が多かったが、アルバイト先への不満に関する質問をしたところ、体や精神的な面での負担は実際には大きいのではないかと思います。

問9 何が「ブラック」だと思うか。具体例

給料未払い	4名	17.3%
休みが取れない	3名	13%
人間関係	3名	13%
契約内容と違う	2名	8%

休憩がない	2名	8%
アルバイト生を募集しない	2名	8%
労働法違反	2名	8%
タイムカードを勝手にきられる	1名	4.3%
残業が多い	1名	4.3%
辞められない	1名	4.3%
時間を守らない	1名	4.3%
なし	1名	4.3%

・「給料未払い」(4名、17.3%)という意見が一番多いという結果になりました。次に、「休みが取れない」、「人間関係」が(3名、13%)、「契約内容と違う」が(2名、8%)となっています。

問10 「ブラック企業」とは、どこからどこまでが「ブラック」だと思うかについて

休みが取れない	4名	17.3%
契約内容と違う	3名	13%
時間外労働	3名	13%
働く人の事を考えなくなったら	3名	13%
強制的に出勤させられる	2名	8%
自分に嫌なことをされたら	1名	4.3%
残業代が出ない	1名	4.3%
法律に触れたら	1名	4.3%
テスト期間などの配慮をしてくれない	1名	4.3%
暴力的	1名	4.3%
分からない	3名	13%

・どこまでが「ブラック」なのか質問をしたところ、様々な観点から見た意見が多くでした。一番多かった意見は、「休みが取れない」(4名、17.3%)です。次に、「契約内容と違う」、「時間外労働」、「働く人のことを考えなくなったら」(3名、13%)、「強制的に出勤させられる」(2名、8%)という結果になりました。

問11 「ブラック」ではないと思う企業とはどんなものか

契約通り	8名	34.7%
働く人のことを考える	6名	26%
優遇がきく	2名	8%
休憩がある	2名	8%
優しい	2名	8%

仕事内容に見合った給料	1名	4.3%
分からない	2名	8%

- ・「ブラック」ではないと思う企業について質問をしたところ、「契約通り」(8名、34.7%)という意見が最も多い結果になりました。次に、「働く人のことを考える」(6名、26%)、「優遇がきく」(2名、8%)となりました。

問12 どうして「ブラック」といわれる企業が出てくるのか

雇用問題や経営困難	7名	30.4%
企業が利益の追求しすぎ	5名	21.7%
人手不足	3名	13%
優しくない	3名	13%
社員の不満の繋がり	2名	8%
働き手のメンタルが弱い	1名	4.3%
学生だからと軽く考えている	1名	4.3%
SNS が普及しすぐバッシングできるから	1名	4.3%

- ・どうして「ブラック」といわれる企業が出てくるのかについて質問をしたところ、「雇用問題や経営困難」が(7名、30.4%)という意見が一番多い結果になりました。「SNS が普及し、すぐバッシングできる」という意見は(1名、4.3%)という少数の意見だが、この意見はとても影響しているのではないかと思いました。

問13 「ブラック」をなくすための改善方法とは

相手のことを考える	8名	34.7%
就業規則を厳しくする	4名	17.3%
時給、日給、月給を上げる	4名	17.3%
社員を増やす	3名	13%
残業をなくす	1名	4.3%
経営者を免許制にする	1名	4.3%
沖縄全体の貧困問題を解決する	1名	4.3%
分からない	1名	4.3%

- ・「相手のことを考える」(8名、34.7%)という意見が、「ブラック」をなくすための改善方法が最も多いという意見になりました。「経営者を免許制にする」といった変わった意見もあったが、とても良い改善方法かもしれません。

V. 考察、分析

問7の学業や健康への支障について、「支障なし」と回答した人が23名中15人と

いう結果となっているが、問8のアルバイト先への不満についての質問で、「社員が仕事を押し付けてくる」や、「休みが取れない」、「残業が多い」などといった身体的にも精神的にも影響がでてきてしまいそうな意見が多数なので、こういった状況から何かしらの支障はあるのではないかと感じました。問9の何が「ブラック」だと思うかの質問に対し、「給料未払い」、「休みが取れない」などといった、「ブラック」の特徴ともいえるような意見が多く出ました。沖縄県は、他県に比べ賃金が低いことから「ブラック企業」が生まれやすいように思いました。

アンケートを実施して、沖縄県のアルバイトの実態状況を少なからず知ることができました。想像していた以上に「ブラック」は多く存在しているように感じました。

VI. 今後の展望

今後、どうして「ブラック」といわれる企業が出てくるのか。「ブラック」といわれる企業を出さないための対処法はどういったものがあるのかなどについてももう少し深く調べていきたいと思います。

VII. 終わりに

本調査研究の結果、①アルバイトの適切な労働時間として、本人の意見を聞くことが一番であるとアンケートを実施して感じました。どんなに大変でも、休み希望さえ聞いてくれると、負担を軽減することができるのではないかと思います。②「ブラック企業」とそうでない企業の違いとして、「契約内容通り」に仕事を進めるか進めないかの問題だと思います。お互いを考えつつ、意見を言い合い聞き合える環境が「ブラックではない企業」といえると思います。③沖縄県の労働問題を改善するためにはどうしたらいいのかという問題について、「ブラックをなくす」という以前に、まず沖縄の貧困問題を解決することが最初の課題だと思います。貧困問題から「ブラック」という問題が生まれてしまっているように感じ、アンケートの回答にもあったように、「沖縄全体の貧困問題を解決する」ことから改善した方がいいと思います。④アルバイトをしている人たちが、何をもって「ブラック」と考えているのかについて、働いている人や場所によって、考え方や感じ方は人それぞれ色々な意見がありました。「給料未払い」や「休みが取れない」、「アルバイト生を募集しない」、「辞められない」といった、本当に「ブラック」と思ってしまう現状が実際に起きているということを感じました。

アルバイトに関する調査を行ってみて、沖縄県のアルバイトの実態として分かったことは、表には出ていないだけで、多くの問題や不満が潜んでおり、それを改善しないままアルバイトを続けているアルバイト生がほとんどということが明らかになりました。働くこと、お金をもらうということの大変さを理解した上で「ブラック」ということに意見する人が少ないと思うが、このまま放っておくのは違うと思います。「ブ

ラック」の解決方法を見つけ、「ブラック」を解決しなくてはならないという必要性が見えてきました。

VIII. 参考文献、調査協力

沖縄大学成定ゼミの1年、3年。

IX. 指導教員コメント

学生を対象としたアルバイトの実態・意識調査を学生の視点から行った点で、重要な調査研究であった。学生にとっての「ブラックバイト」には、法的違反だけでなく、職場の人間関係や雰囲気悪さも含まれることが明らかにされたことは意義深い。今後、さらに、結果の一つ一つを踏まえた丁寧な分析が期待される。